

6月号

グリーン・ウェーブ GREEN WAVE

第181号
発行●グリーンコープ生協ふくおか 理事会
編集●広報委員会
福岡市博多区博多駅前1-5-1博多大博通ビルディング3F
TEL●092-482-7770 (代)
ホームページ●http://www.greencoop-fukuoka.jp

今月号の主な内容

- 総代名簿2
- お店・キープ&ショップ・みんなのお店元気カー3
- 産直豚4・5
- 子どもの貧困について考える6
- 福祉のつどい7

すごいぞ! 熱いぞ! 学び合う 青果生産者たち

グリーンコープの産直青果は、安心・安全でおいしい! それは、化学農薬や化学肥料をできる限り使わず、自然の力を最大限に生かして栽培をしているからです。自然は大きな恵みをもたらしますが、台風や大雨、冷夏などの試練ももたらします。ですから、グリーンコープ青果生産者は、できる限り多くの組合員が青果を食べ続けていけるよう、大変な努力と工夫をしています。

青果生産者は毎年、各府県のグリーンコープエリア持ち回りで、生産のための技術向上と交流を目的に技術交流会を開催していますが、今年は飯塚市が会場でした。

熱い思いで作られている青果を、もっともっと利用していきましょう!

2/18-19 2015年度 グリーンコープ青果生産者の会 技術交流会

72団体が一堂に会しました!



ここ数年のグリーンコープの取り組みで青果の注文も増加傾向にあり、私たち生産者も生産に今まで以上に美味しく安心、安全な野菜や果物を届ける為、日々努力しています。しかしここ数年異常気象の影響で、安定した出荷が難しい時期が多くなっています。集中豪雨、異常高温、異常低温、大型台風などの障害が一年のうちに頻発し、生産者も対応に苦慮しているのが現実です。

青果生産者の会の生産者は課題を常に抱え、一つひとつ問題を解決しながらより良い品物を皆様に届けられるよう努力していますので、これからも青果の支持を宜しくお願い致します。



▲青果生産者の会
会長 高野 一雄さん

●技術交流会に参加して

産直生産者の方々が横に繋がり、技術を高めあう会をもたれていたことを初めて知りました。20年、30年と農業に携わっていてもなお、圃場視察や、技術交流を通して安心・安全な青果作りを追求していらっしゃる姿に感動しました。後継者を育てる取り組みとして、若い方を受け入れ、農業研修を行っていることなどたくさんのお話をしてくださいました。私たちにできることは食べる仲間を増やすことだと感じました。

筑豊支部委員長 谷 亜矢子

●交流会で話し合われた主な内容

①ネオニコチノイド系農薬排除に向けて

グリーンコープは、農薬をできる限り排除しようと取り組んでいますが、害虫駆除に用いられるネオニコチノイド系農薬(ミツバチが少なくなっている原因のひとつとも言われています)は、生産品目によっては依存度が高く、その排除は大きな課題となっています。排除に向けて、まず葉もの類はネオニコチノイド系農薬を栽培計画から外した上で、害虫が発生した場合のみ追加防除として使うように取り組んでいきます。また、当面排除が難しい作物については、試験圃場を作り、新しい栽培技術の確立に向けて対策を探る、果実類ではミツバチが飛び交う受粉時期は使用しないように取り組むなどの話し合いがおこなわれました。

農薬をできるだけ使わないように生産者たちは努力しているんだね



②欠品対策について

欠品対策については、各生産者より個々の栽培経験から得た技術や資材の活用などの意見交換が行われ、今後の生産に活用し、結果が期待される話し合いが行われました。

青果物は生産者と栽培内容(無農薬や減農薬)などを話し合って生産しているグリーンコープ独自のものなので、他に代替できるものがないんだ。だから、天候の影響でうまく育たなかったり、病気や害虫などの被害を受けた場合、また、注文数が収穫量を上回る場合は、届けることができないんだ。

生産者は、注文数が出荷できるように、出荷見込みの1.5倍程度の作付けをしたり、規格変更なども取り入れて、できるだけ多くの組合員に届くようにしているんだよ

グリーンコープの産直ってすばらしい!

1. その生産物を誰が作っているのか明らかである。
2. その生産物がどのような生産方法(栽培・飼育など)になっているか明らかである。
3. 生産者とグリーンコープ(組合員)との交流ができる。
4. 生産者の側からみても産直提携が実感できる。



生産者の思いのつまった
産直の
野菜と果物を食べよう!

